

「認定社会福祉士」に関する意識調査

2017年度認定社会福祉士認定社会福祉士制度推進委員会

調査の概要

- 目的

- 本会では2025年度までに認定社会福祉士登録者7,000人を目指し、認定社会福祉士制度の普及・定着に関する活動を行っていることから、それらの活動を進める上で、会員の認定社会福祉士制度に対する認識や、認定社会福祉士取得への意向を確認することを目的として実施

- 対象

- 2017年3月31日時点の会員（認定登録者を除く）、等間隔（16名に1名）に2,500名を無作為に抽出した。

- 回答

- 1,111名から回答を得た。回答率は44.4%

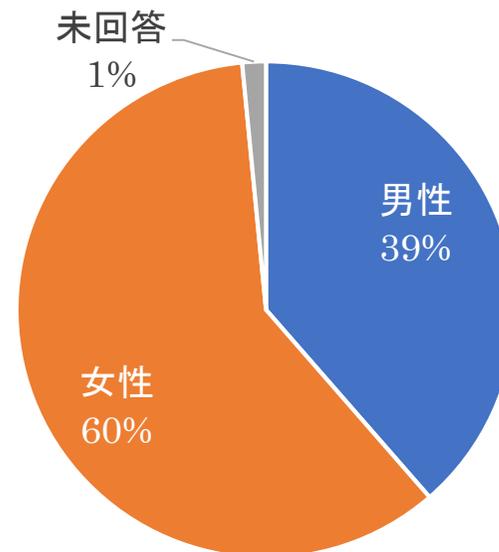
回答者の基本属性

問1-1-1 社会福祉士の資格登録の年 n=1110

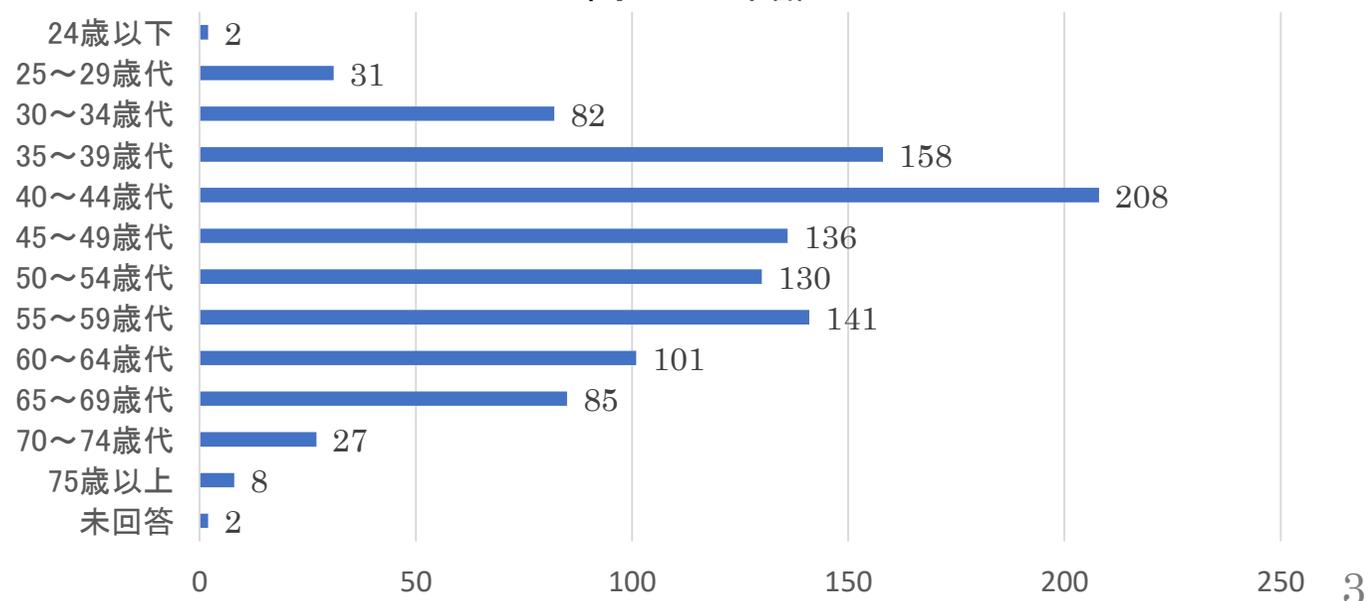
(社会福祉振興・試験センターへの登録年)

登録年	人数(人)	比率(%)
平成30年	3	0.3
平成29年	2	0.2
平成28年	36	3.7
平成27年	43	4.4
平成26年	49	5.1
平成25年	30	3.1
平成24年	44	4.5
平成23年	51	5.3
平成22年	37	3.8
平成21年	54	5.6
平成20年	58	6.0
平成19年	49	5.1
平成18年	65	6.7
平成17年	48	5.0
平成16年	42	4.3
平成15年	48	5.0
平成14年	57	5.9
平成13年	42	4.3
平成12年	37	3.8
平成11年	36	3.7
平成10年	27	2.8
平成9年	26	2.7
平成8年	23	2.4
平成7年	11	1.1
平成6年	15	1.5
平成5年	6	0.6
平成4年	13	1.3
平成3年	5	0.5
平成2年	8	0.8
平成1年	4	0.4
未回答	141	14.6

問1-1-2 戸籍上の性別 n=1111

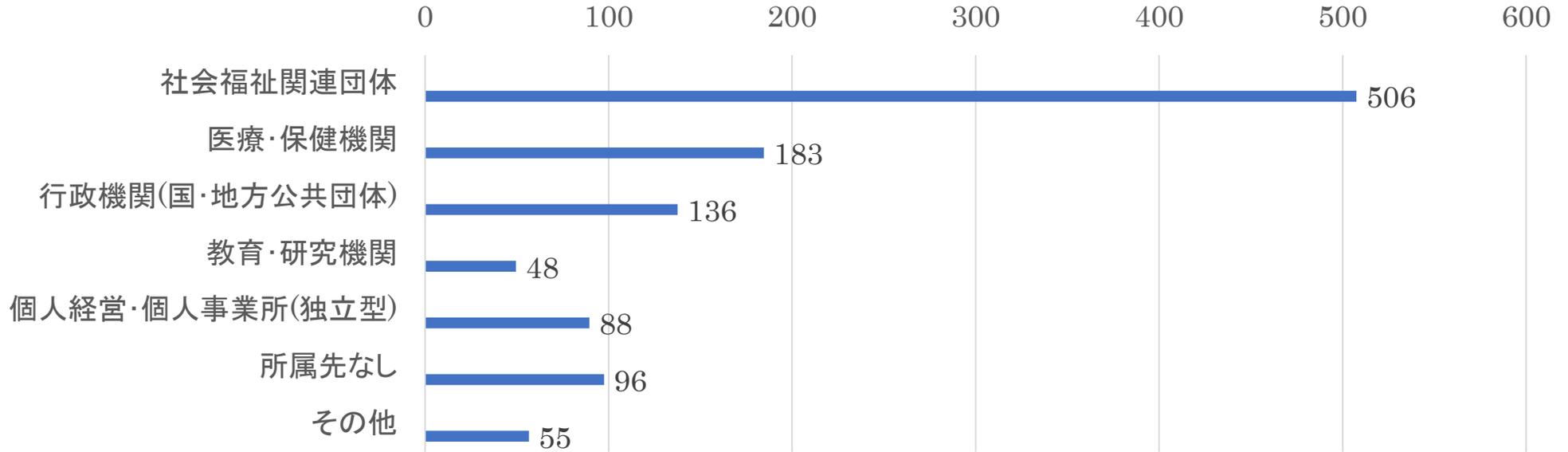


問1-1-3 年齢 n=1111

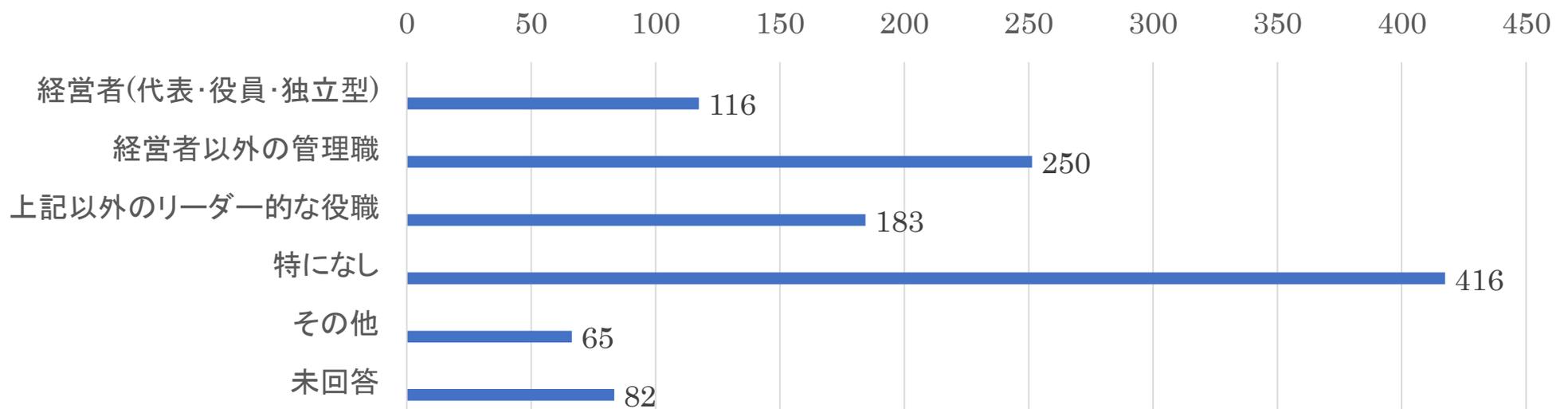


回答者の所属先・役職 n=1112

問1-2-1 所属先の主たる経営・運営主体

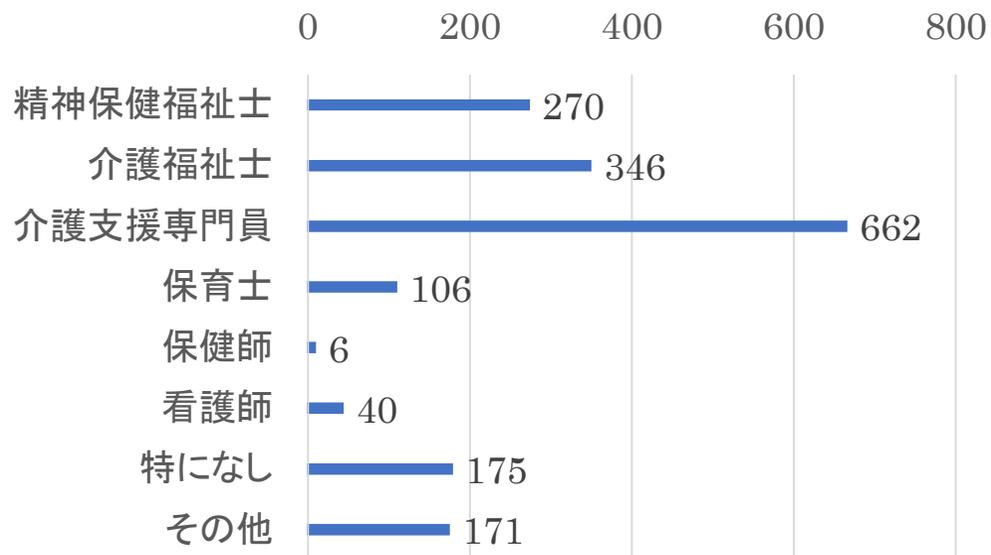


問1-2-2 所属先での役職

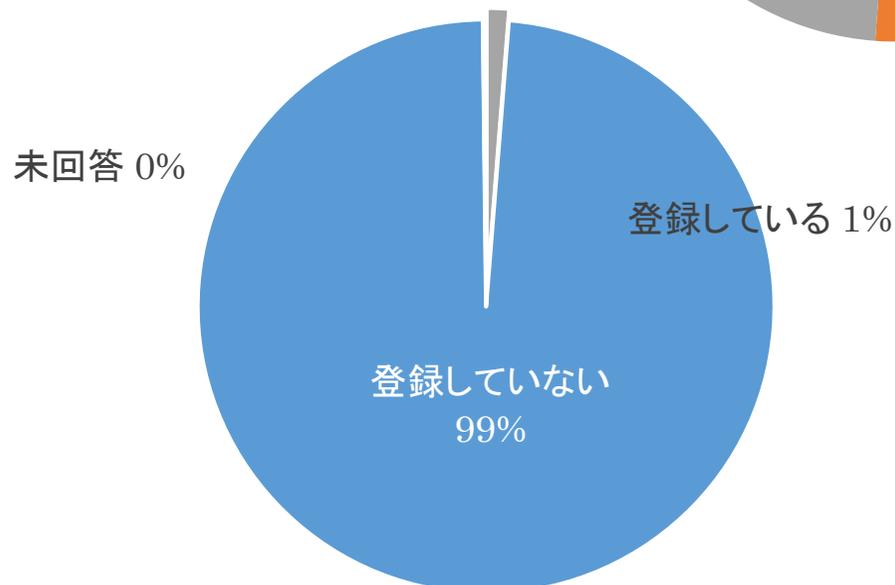
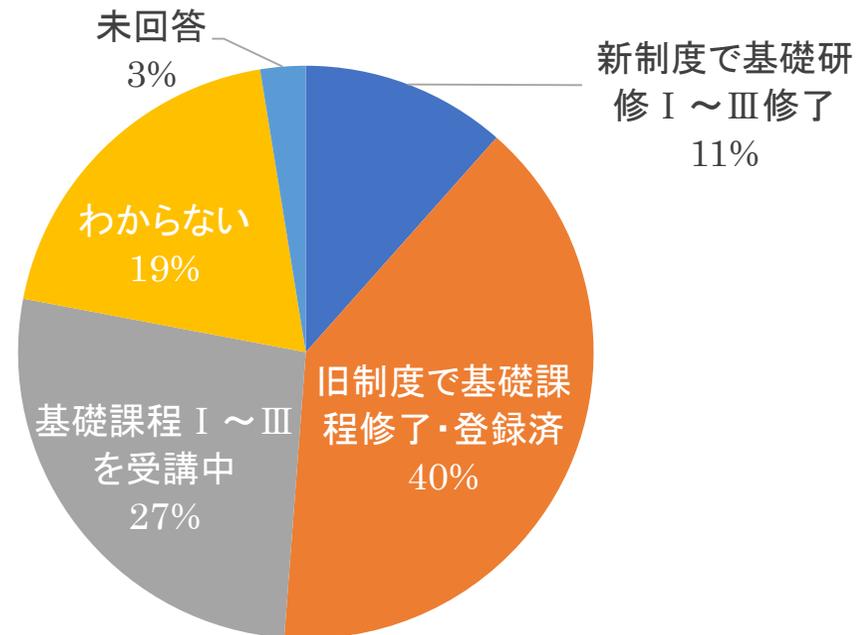


回答者の資格等の状況

問1-3 取得している国家資格等 n=1776



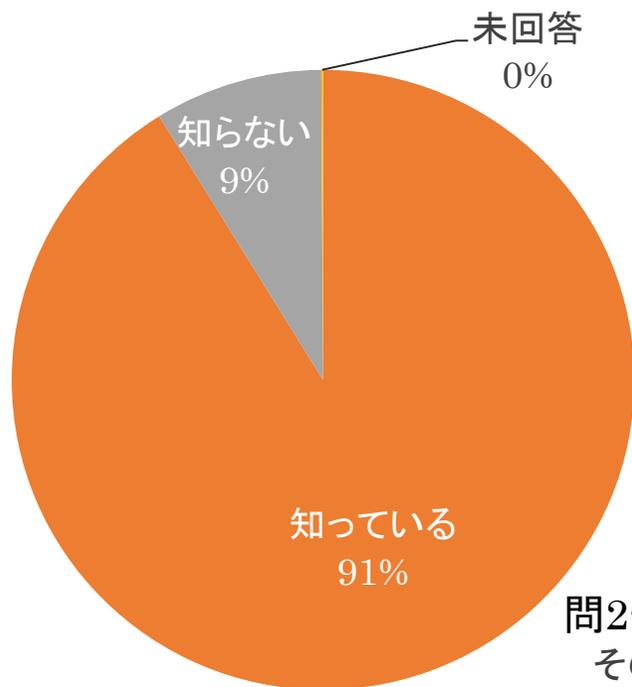
問1-4 基礎課程の修了状況 n=1111



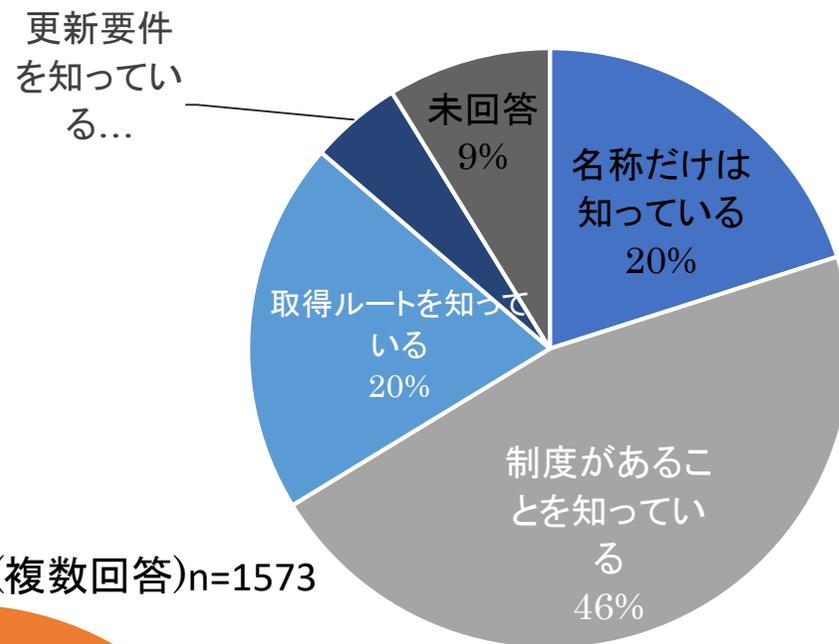
問1-5 認定社会福祉士認証・認定機構へのスーパーバイザー登録 n=1111

回答者の認定社会福祉士制度に対する認知度

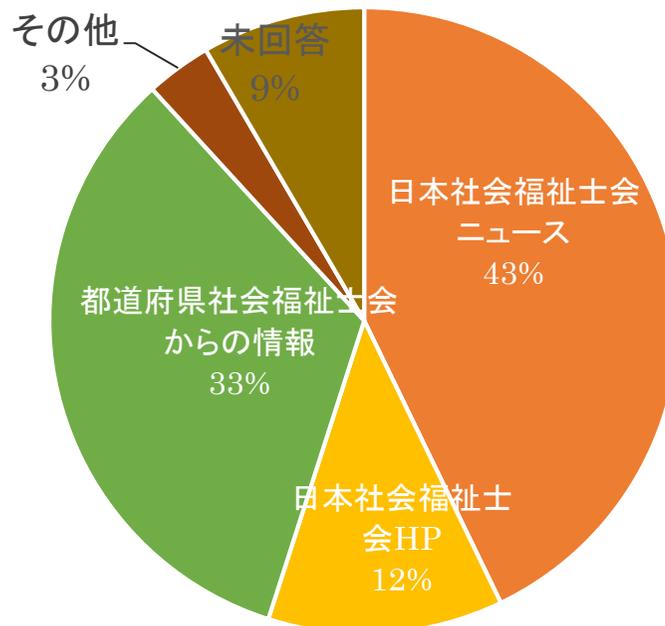
問2-1 認定社会福祉士制度の認知 n=1110



問2-2 認知の程度(複数回答)n=1506

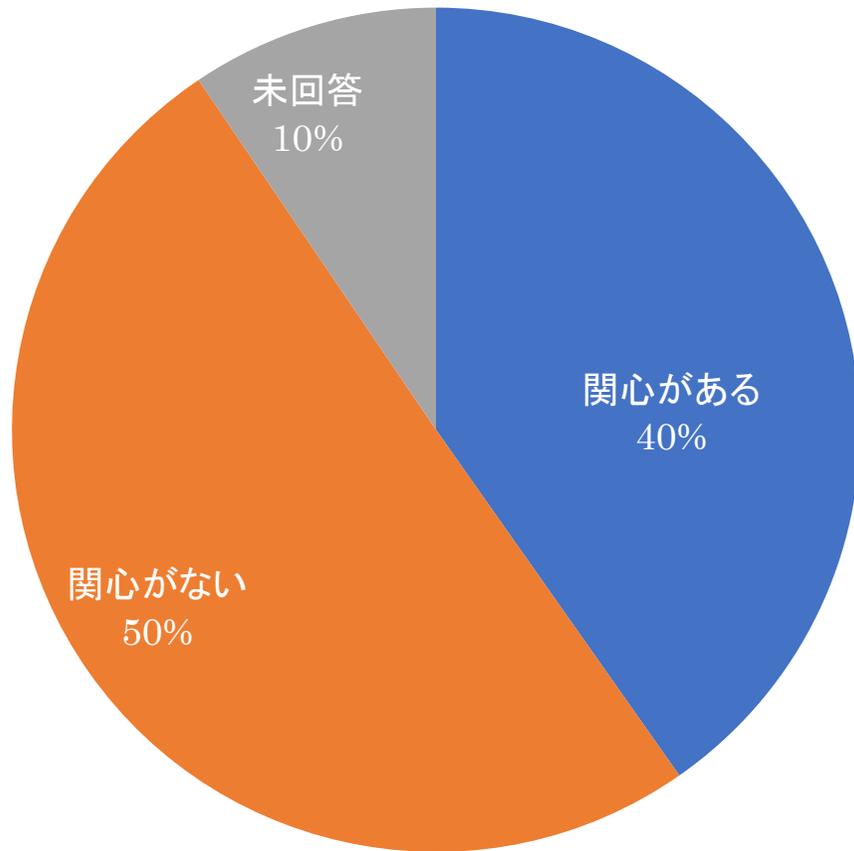


問2-3 情報収集の手段(複数回答)n=1573

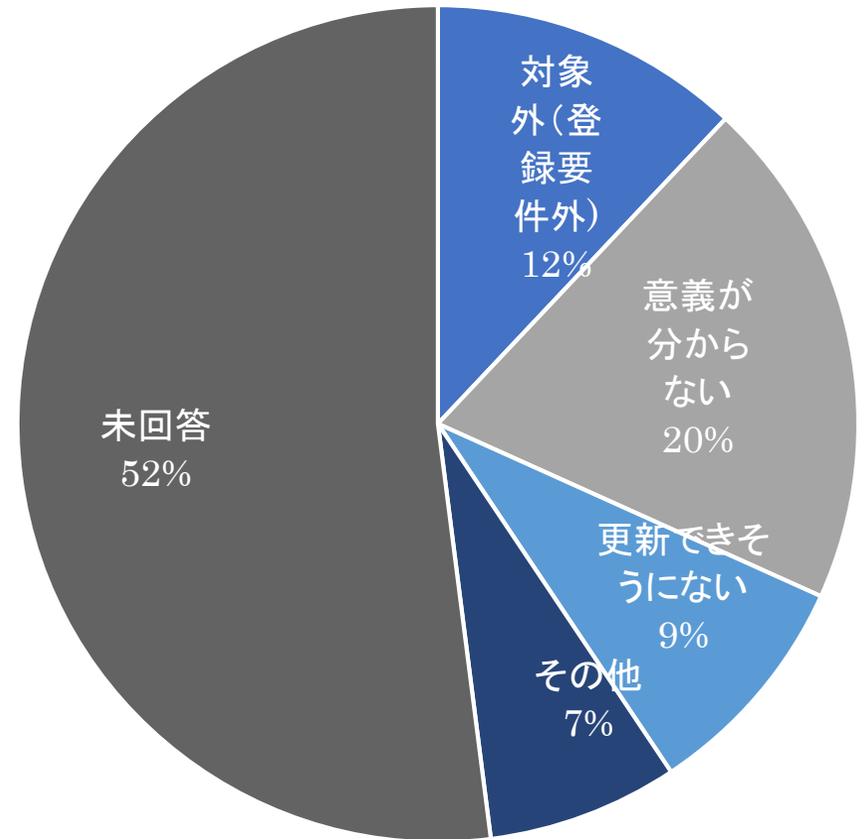


回答者の認定社会福祉士制度に対する関心

問2-4 制度への関心 n=1110

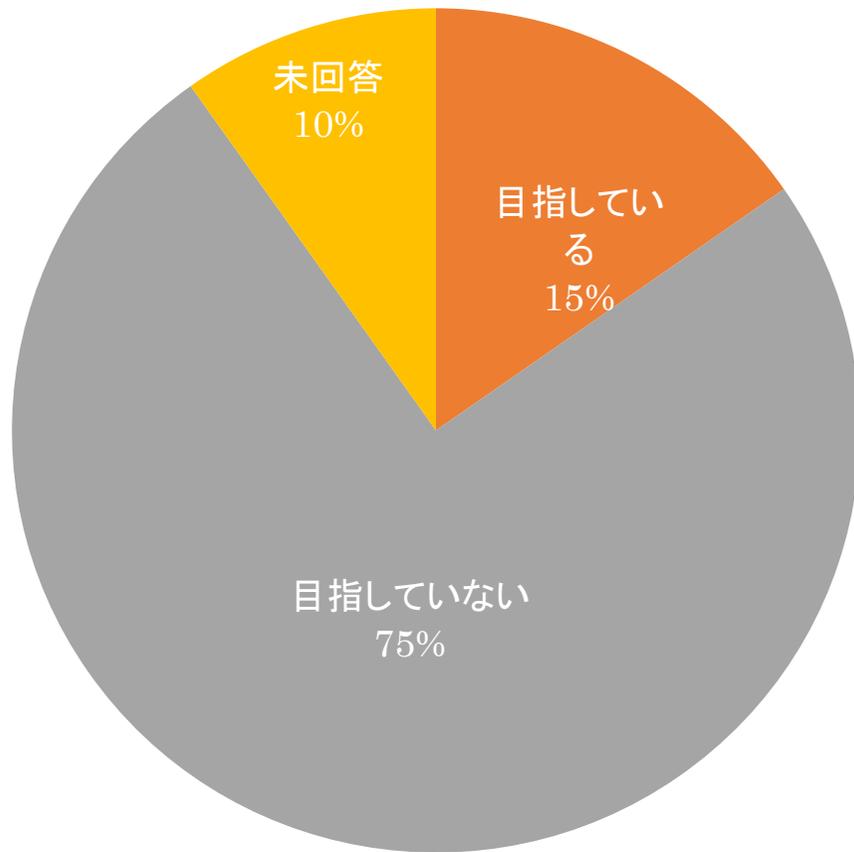


問2-4-2 関心がない理由 (複数回答) n=1442

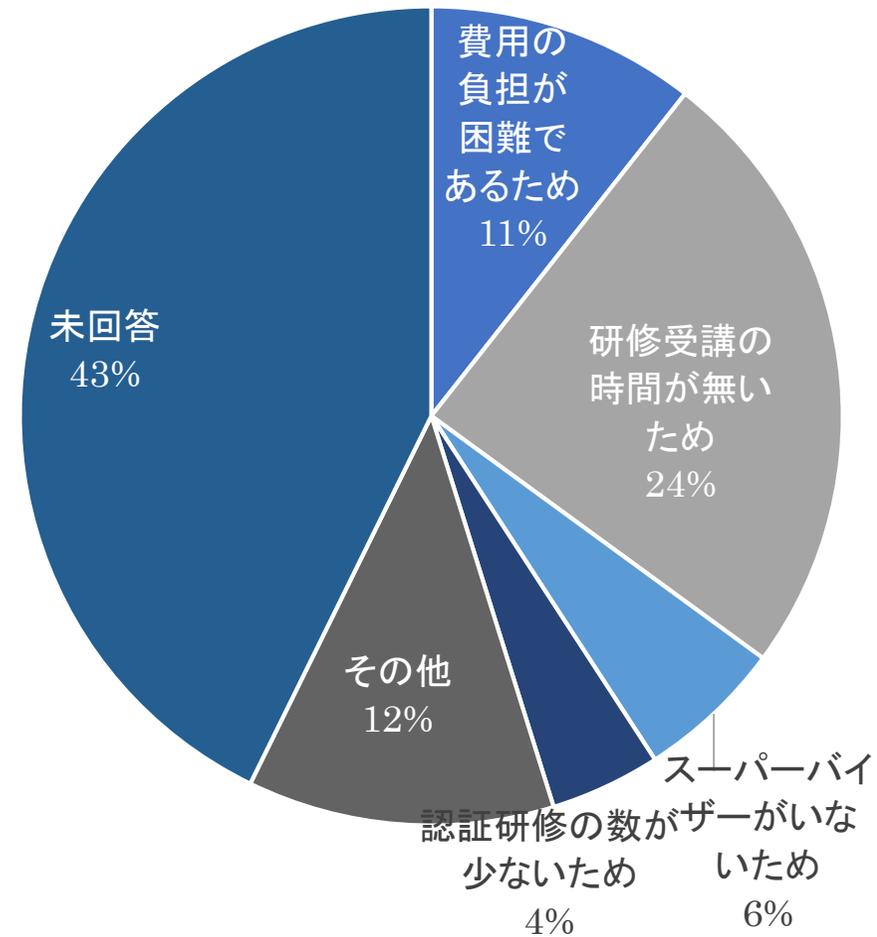


回答者の認定社会福祉士の志向性

問2-5 認定社会福祉士を目指しているか
(複数回答) n=1110

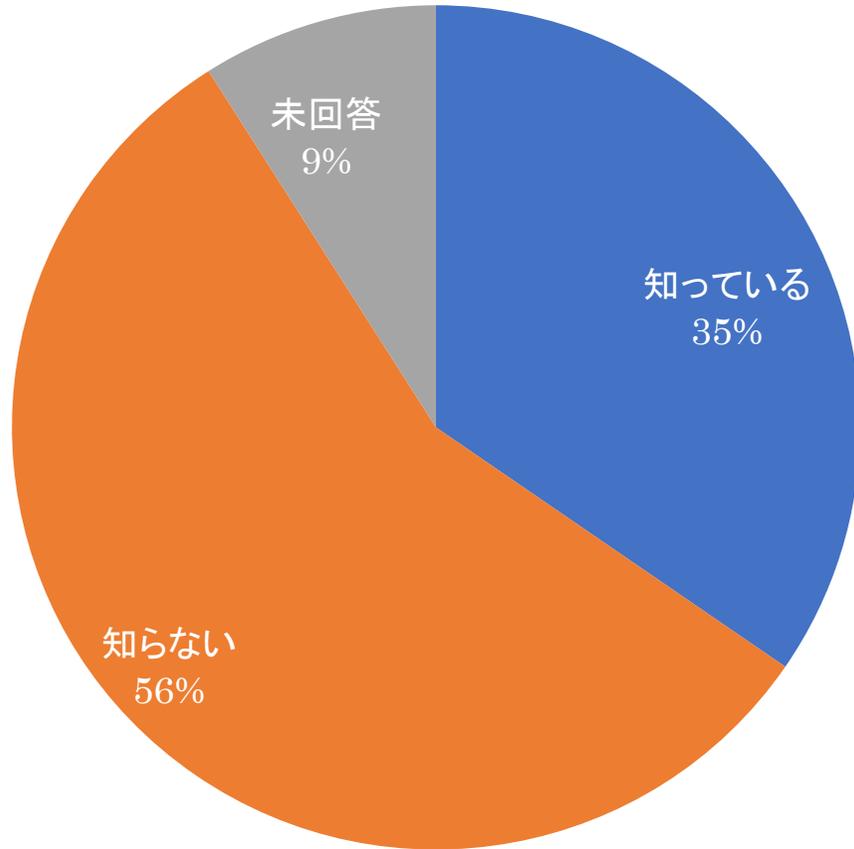


問2-5-2 目指していない理由 (複数回答) n=1442

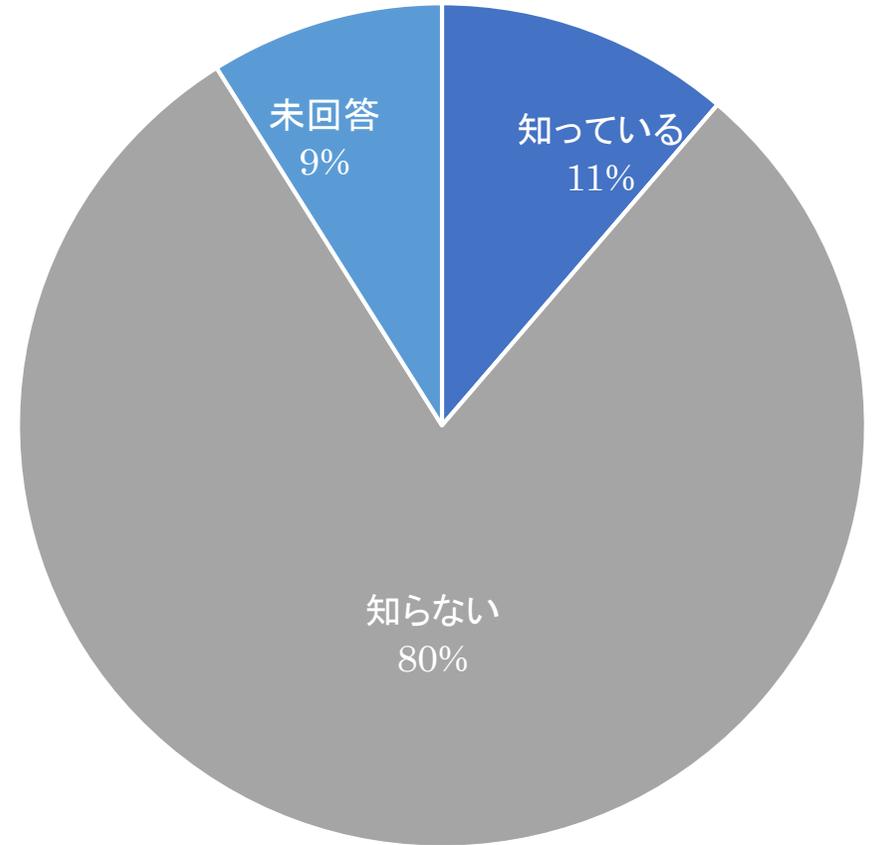


回答者の認定社会福祉士の更新に関する理解

問2-6 更新に関する理解 n=1110



問2-6-2 更新の要件 n=2164



問3 認定社会福祉士認定社会福祉士制度に関するご意見やご感想（複数回答） n=326

件数	課題・意見等の内容
39	時間が確保できない／忙しくて取り組めない／受講しづらい・できない
30	取得によるメリットが理解できない
30	社会福祉士の地位・資質・実践能力の向上を優先すべき
21	受講に係る費用が高い
16	認定社会福祉士制度がよくわからない／複雑である
12	認定社会福祉士制度の必要性が理解できない
12	認定社会福祉士がなくても仕事ができる
12	認定社会福祉士の取得ルートがわかりづらい
12	認定社会福祉士制度の社会的な認知・評価が低い
11	高齢による年齢的なことから認定社会福祉士の取得が困難
10	組織率を上げることを優先すべき
10	スーパービジョンが受けづらい／受けられない
9	認定社会福祉士制度の意義を理解できない
7	特になし
6	認定社会福祉士取得に係る受講要件の緩和が必要
5	認定医療社会福祉士・精神保健福祉士等との共通化・統合化
4	子育てしていると取得しづらい
74	その他

自由記述から得られた回答のうち、課題・意見等の内容をコード化し上位17位を件数の多い順に並べた。 10

問3 認定社会福祉士認定社会福祉士制度に関するご意見やご感想（複数回答） n=34

件数	期待する内容
10	認定社会福祉士を目指したい
6	社会福祉士の地位・認知の向上に資する
3	機会があれば認定社会福祉士を目指したい
3	認定社会福祉士制度の普及・定着
2	専門性の向上に必要
1	興味はある
1	若年層であれば目指したい
1	通信があると挑戦しやすい
1	認定社会福祉士取得を義務化すべき
1	認定社会福祉士の活躍
1	若年層に認定社会福祉を目指してもらいたい
1	認定社会福祉士の要件を厳しくすべき

自由記述から得られた回答のうち、期待する内容をコード化し上位11位を件数の多い順に並べた。

問3 認定社会福祉士認定社会福祉士制度に関する意見等の考察

1 研修受講に関すること

- 39件 時間が確保できない／忙しくて取り組めない／受講しづらい・できない
- 21件 受講に係る費用が高い
- 10件 スーパービジョンが受けづらい／受けられない

特別研修をはじめ県士会の研修会(基礎研修を含む)は、土日や都市部に集中しており、地方会員には受講しづらく、経費もかかる。職場によっては、土日が必ずしも休みではなく、限られた人員体制の環境では受講しづらい。職務上受講しなければならない研修もあり、会員が受講しやすい環境を整備していく必要がある。また、スーパービジョン体制が不十分であることから、基礎課程修了から先に進めない現状がある。スーパービジョン体制の整備が急務と言える。

2 認定社会福祉士制度に関すること

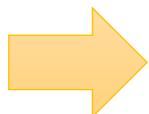
- 30件 取得によるメリットが理解できない
- 12件 認定社会福祉士制度の必要性が理解できない
- 16件 認定社会福祉士制度がよくわからからない／複雑である
- 12件 認定社会福祉士の取得ルートがわかりづらい
- 12件 認定社会福祉士制度の社会的な認知・評価が低い
- 11件 高齢による年齢的なことから認定社会福祉士の取得が困難
- 4件 子育てしていると取得しづらい
- 9件 認定社会福祉士制度の意義を理解できない
- 6件 認定社会福祉士取得に係る受講要件の緩和が必要
- 5件 認定医療社会福祉士・精神保健福祉士等との共通化・統合化

会員からの認定社会福祉士制度に対する否定的な意見が多い。認定社会福祉士の登録をしたことによって、所属組織における待遇改善などが見込まれることがなく、メリット、意義、必要性に対する疑義がある。認定社会福祉士制度の意義や必要性、メリットをどのように理解をし、どのように伝えることができるのか。会員の理解が得られるよう再検討が必要である。また、制度的な任用を目指す上で、まずは本会組織内における任用・活用・待遇改善を図り、社会福祉士との差別化を図ることが求められる。

3 社会福祉士に関すること

- 30件 社会福祉士の地位・資質・実践能力の向上を優先すべき
- 12件 認定社会福祉士がなくても仕事ができる
- 10件 組織率を上げることを優先すべき

認定社会福祉士の前提として、社会福祉士の地位・資質・実践能力の向上をまずは、優先すべきという意見が多い。認定社会福祉士ではなくても仕事に支障がない中で、認定社会福祉士ではない、36,000人(会員43,080-7,000登録計画者)又は203,000人(登録者210,000-7,000登録計画者)の実践能力の向上等(学び直し)を図ることが求められている。



- 会員が登録を目指しやすい受講環境の整備と仕組みの簡素化が必要である。
- 制度への不信感から会員の理解と共感が得られる取組みと成果が求められる。